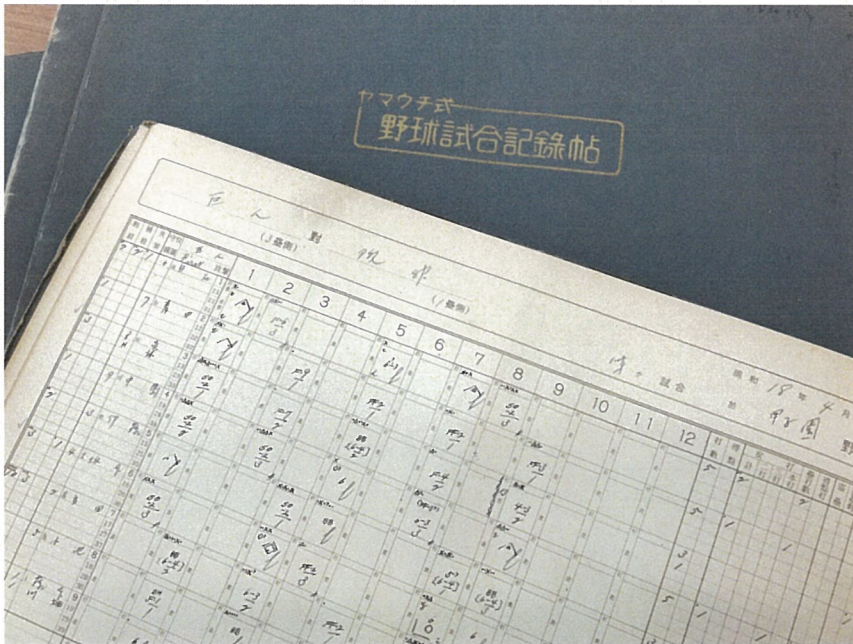


公式記録マニュアル



(編集) 日本野球協議会
オペレーション委員会 記録部会

2018年3月9日

- 1 … 公式記録員の任務
- 2 … 安 打
- 3 … 打 点
- 4 … 盗塁・盗塁刺
- 5 … 犠打・犠飛
- 6 … 併殺打
- 7 … 失 策
- 8 … 併 殺
- 9 … 暴投・捕逸
- 10 … 自責点・失点
- 11 … 勝投手
- 12 … その他
- 13 … タイブレーク

【編注】 文中に出てくる (9.05) や 9.05 (b) (5) などは、公認野球規則の条項を示す。

【スコアを付けるときに心掛けること】

- ① 試合を見る姿勢は前のめりではなく少し引いた感じで見る。
ボール、走者、守備者を同時に見なければならないので、できれば少し高い場所から俯瞰して見るのが理想だが、グラウンドレベルからでもなるべく広い視野で見るように心掛ける。
- ② プレイがあったらすぐに記入するのではなく、ボールが投手に戻ったのを確認しそれからスコアを記入する。(ボールが投手に戻るまでは目を離さない)
- ③ 難しいプレイは、記号で書くことを考えるよりも雑記欄にメモするとよい。
- ④ ジャッジの反省は試合が終わってから。(その時に考え出すとプレイに集中出来なくなる)
- ⑤ なるべくリラックスして見る。(集中し過ぎると視野が狭くなる傾向があり好ましくない)

【ボックススコアの検算】 9. 03 (c)

打席数＝得点＋残塁数＋アウト数＝打数＋犠打・犠飛＋四死球＋妨害出塁

1 公式記録員の任務

(a) 記録に関する規則の適用に関して、たとえば打者が一塁に生きた場合、それが安打によるものか、失策によるものかなどを、独自の判断で決定する権限を持つ。

(b) 記録員は、審判員の裁定に反するような決定を下してはならない。

(例：インフィールドフライ落球。守備妨害時のヒット)

本規則に明確に規定されていない事項に関しては、自己の裁量でその決定を下す権能が与えられている。

※審判員へ助言できる事項

アウトカウント、ボールカウント、選手交代の誤り（代わることが許されない投手交代など）
については審判員に助言を与える。

ただし、打順の誤りは助言できない（相手チームからアピールがあればアウトとなるため）。

2 安打 (9.05)

[1] 安打の基本

- (a) 野手に触れていないフェアボールが走者に当たったとき。(飛球であっても安打とする)
- (b) 走者が打球を処理しようとしている野手の妨げになり走者だけがアウトになったとき、打球が安打性であれば安打とする。9.05 (b) (5)
- (c) 打球を扱った内野手が次塁を奪おうとする先行走者をアウトにした場合、安打にしない。
ただし、外野手が扱った場合はフォースアウトにされない限り、打者に安打を記録する。
9.05 (b) [注2]
- (d) 打球を扱った野手がただちに打者走者に向かわないで、他の走者をうかがったり、他の塁へ投げるふりをしたため送球が遅れ打者を一塁に生かした場合、安打とする。
9.05 (b) (4) [原注]
- (e) 打者走者が一塁走者を追い越した場合、原則安打とする。(明らかにフライ落球は失策)
- (f) 疑義のあるときは、常に打者に有利な判定を与える。9.05 (a) [原注]

【こんなケースはどうする？】

Q：打球が野手のユニフォームに入ってしまった。

A：ボールデッドで打者走者はアウトにされることなく出塁。記録の扱いとしては打球が安打性であればヒットとする(失策もあり)。

(実例) 2005年夏の甲子園、「清峰 対 愛工大名電」の5回表清峰の攻撃、ショートゴロの打球が遊撃手のユニフォームに入ってしまう打者は一塁に生きた。このときの記録は内野安打。

[2] 単打・長打の決定 (9.06)

- (a) フォースの状態の場合は、先行走者の進んだ塁の数より多い塁打は与えられない。
走者一・二塁で、二塁打性の打球。二塁走者本塁でアウトなら打者走者が二塁に達しても単打。
走者二塁で、二塁打性の打球。二塁走者本塁でアウトでも、打者が二塁に達すれば二塁打。
- (b) 打者が二塁打性の打球で、二塁をオーバーランでアウト → 二塁打(確保している)
二塁をオーバースライドでアウト → 単打(確保していない)
- (c) 5.06 (b) (4) の規定に基づいて塁が与えられた場合には、規定通り与えられた塁によって塁打を決定する。9.06 (e)
例えば、フェアの打球にグラブを投げる。帽子で止める。フェアの打球に野手が触れファウル地域のスタンドに入ったときなど。
例) 本塁打性の打球にグラブ、帽子、着衣を投げ進路を変えた場合、4個の塁を与える
→ 本塁打。

(実例) 2008年5月4日「ロッテ 対 西武」の5回表、栗山(武)の一・二塁間の安打性の打球に、オーティズ(ロ)がグラブを投げつけて打球に触れたため、栗山には三塁が与えられた → 三塁打

【こんなケースはどうする?】

Q: フェンス際の捕球できそうなフライが、外野手のグラブ(または体)に当たりインフライトのままフェア地域のスタンドへ入る。5.05 (a) (9)

A: 捕球できる打球と判断すれば失策もあり。

(d) オブストラクションが宣告され、打者走者に対して妨害がなければ達したと思われる塁への進塁を許されたときは、与えられた塁によって塁打を決定する。

例) 打者が三塁打と思われるような長打を放つも二塁を回ったところで遊撃手に妨げられてしまった。審判員はオブストラクションを宣告し、打者走者を三塁まで進めさせた。

→ 三塁打

[3] サヨナラ時の記録

(a) 無死・一死から内野ゴロでサヨナラの場合

①本塁へ送球しセーフは安打(打者走者がアウトのタイミングでも野選はない)。

本塁アウトのタイミングで悪送球なら失策もあり。

②三本間でランダウンとなるも失策つかず生還した場合は野選(打点なし)。

③一塁へ送球したのを見て三塁走者スタート(一塁アウト) → 打数1、打点1、一死増える

④一死満塁で併殺を試み二塁封殺のみ → 打数1、打点1、一死増える

⑤勘違いし一塁へ投げてしまった → アウトは無視。安打とし打点あり。

(実例1) 2014年夏の甲子園、「鹿屋中央 対 市和歌山」、12回裏一死一・三塁でセカンドゴロ。

判断ミスで一塁へ投げてしまった(記録は内野安打)

(実例2) プロ野球でも2005年8月30日「ソフトバンク 対 ロッテ」の9回裏一死三塁から松

中(ソ)が一ゴロ。一塁手は本塁送球を諦め三塁走者が生還する前に一塁を踏むも、このアウトは無視し内野安打とした。

(b) サヨナラ安打の塁打決定

サヨナラ安打の塁打の決定は下記の3つの要素で決定する。9.06 (f)

①打球

②決勝走者の進んだ塁数

③打者走者の進んだ塁数(決勝走者の生還後でも)

例) 同点で走者一・二塁。二塁打性の打球でサヨナラ。打者走者が二塁を踏めば二塁打。

Q: 同点で満塁。打球はワンバウンドし外野スタンドへ入るサヨナラヒット。記録は?

A: シングルヒットで得点は1点。(通常ならエンタイトル二塁打だが三塁走者が生還した時点でゲームセットとなる)

【例外】本塁打のときだけ、例外として決勝点以上の全ての得点が認められる。7.01 (g)

3 打点 (9.04)

(a) 走者三塁、内野ゴロで得点。

- ① 打者走者アウトの間は打点。例えば内野手が一塁へ送球するのを見て三塁走者スタートも打点。
- ② 満塁で内野ゴロ失策。原則として前進守備なら打点なし。中間守備で明らかに併殺を狙っていたら打点。(あくまでも判断の基準であって、必ずこうする必要はない)

(b) フォースアウトの間(フライ落球起因でも)の得点は打点とする。

例えばゴロの打球で他の走者をフォースアウトにする間の得点は打点である。

例) 一・三塁で(故意ではなく)内野フライ落球。一塁走者を二塁に封殺する間に得点した場合、打点とする。

<適用>

9.12(d)(4)インフライトの打球を落とした後、ただちにボールを拾って、どの塁でも走者を封殺した場合には、その野手には失策を記録しない。

(c) 次の場合、打点を記録しない

- ① 走者三塁で内野ゴロ。三本間でランダウンされるも失策なく走者が生還は打点なし。
- ② 打者に併殺打が記録されたとき
- ③ 走者二・三塁、内野フライ落球し二塁走者を三塁でアウトにする。その間に得点しても打点は記録しない。

【こんなケースはどうする?】

Q: 一死一・三塁、打者はショートヘライナーを放つ。遊撃手は捕球した後、一塁へ送球し飛び出した一塁走者をアウトにし併殺となる。三塁走者はリタッチすることなく走り続け第3アウトより前に生還し、守備側からのアピールもなく得点が認められた。打点は?

A: 打者に打点を記録する。

(実例) 2012年夏の甲子園、「濟々饗 対 鳴門」7回裏に濟々饗が実際にこのケースで得点したので、打者には打点を記録。

～補足説明～

守備側は、第3アウトが成立した後でも有利となるアピールアウトを選んで、先の第3アウトと置きかえることができる。上記の場合、再度三塁でアピールすれば得点とはならない。

4 盗塁・盗塁刺 (9.07)

[1] 盗塁と盗塁刺の基本

9.07 (a) 走者が投手の投球に先立ってスタートしていれば、暴投、捕逸があっても盗塁とする。

さらに先の塁に進めば、盗塁+暴投 or 捕逸

スクイズ (スタートしている) 空振り、見逃しで得点 → 盗塁

失敗 → 盗塁刺

9.07 (b) 盗塁を企てたとき、投球を受けた捕手が悪送球しても盗塁とする。

走者が一旦止まるなどしても、捕手がすぐさま送球していれば悪送球となっても盗塁。

ただし、スタートした走者が一旦止まったのを見て、捕手が走者を追いかけるなどランダウンの状態になりタイミングがあれば、悪送球した捕手に失策をつけて盗塁刺とする。

9.07 (c) 盗塁を企てるか、牽制で誘い出された走者がランダウンされ、失策によらずに次塁へ進めば盗塁。失策によりアウトを免れたと判断したときは、盗塁刺を記録する。

9.07 (d) 走者が複数するとき、一人の走者が盗塁刺になればどの走者にも盗塁は記録されない。

【原則】盗塁と盗塁刺が同時に記録されることはない。

【こんなケースはどうする？】

Q：一・二塁で重盗。捕手が三塁へ送球しセーフのあと二塁へ転送し一塁走者アウト。

A：一塁走者は盗塁刺となるので三塁へ達した走者に盗塁は記録されない。

9.07 (e) オーバースライドでアウトは盗塁刺 (確保にはならない)

9.07 (f) タイミングが十分にあり、明らかに野手が落球したときには適用することもある。

(プロ野球でも適用することはほぼない)

9.07 (g) 守備的無関心 (プロ野球だけ適用)

9.07 (h) 【原注】捕手が投球を逸らしたのを見てスタート。アウトになっても盗塁刺を記録しない。

セーフのとき→暴投 or 捕逸

【こんなケースはどうする？】

Q：投球がワンバウンドになりそうなのを予測して一塁走者スタート。結果ワンバウンドの投球を捕手がキャッチして二塁へ送球するもセーフ。走者の記録は暴投？盗塁？

A：盗塁を記録。

(理由) 暴投の定義 (9.13) 「普通の守備行為では止めることも処理することもできず」

結果的に捕球して送球できていることは、処理できていることなので盗塁とする。

[2] その他

(a) 一塁走者が盗塁を企て、一挙三塁を狙うもアウトになった場合は、盗塁と走塁死とする。

同様のケースで (失策なく) 三塁セーフになった場合、二進は盗塁、三進は野選とする。

- (b) 「規則 6.01 (a) (5) アウトになったばかりの打者または走者が、味方の走者に対する野手の次の行動を阻止するか、あるいは妨げた場合は、その走者は味方のプレーヤーが相手の守備を妨害したものであるとして、アウトを宣告される。」が適用された場合。

例えば、三振目に一塁走者スタート。空振りした打者が捕手の送球動作を妨害して走者もアウトになる。この場合は妨害でアウトなので盗塁刺は記録しない。

5 犠打・犠飛 (9. 08)

[1] 犠打

- (a) 走者三塁でスクイズ。三塁走者ランダウンされるもミスプレイなく生還。

犠打ではなく野選とし、打点もなし。

二・三塁で三塁走者ランダウンされ生還、二塁走者は三進 → 犠打なし

二・三塁で二塁走者ランダウンされ三進、三塁走者は生還 → 犠打野選

- (b) 複数走者がいたとき、一人でも走者がアウトになれば犠打とはしない 9.08 (c)

- (c) バントで進塁した走者が、オーバーラン、オーバースライドでアウトになったときは、安全に次塁に送っているとして「犠打」とする。9.08 (c) 【注 1】

- (d) 犠打で進塁後、走者がファウルと勘違いして元の塁へ戻ろうとしてアウトになった場合は、犠打を取り消す。 → フォースの状態であれば打者に併殺打を記録

(実例) 2016 年選抜大会、「高松商 対 いなべ総合」の 10 回表、いなべ総合の攻撃で実際に起こった。無死一塁で一塁線の送りバントが成功するも、二塁に達した走者がファウルと勘違いし元の塁へ戻ろうとし挟まれてアウトになった。 → 犠打を取り消し

[2] 犠飛

- (a) 走者二塁。深い外野フライでタッグアップし一挙生還。犠飛を記録する。

- (b) 外野手が落球して三塁走者がタッグアップして得点したとき、落球がなくても得点できたと判断すれば犠飛を記録する。

内野手が捕球して得点した場合は、原則として犠飛にはしない。打球の性質が外野フライで内野手が外野のほうまで回り込んで捕球したときには、犠飛とすることもある。

6 併殺打「9.02(a)(17)」

- (a) リバースフォースダブルプレイも併殺打とする。9.02(a)(17)【注1】
リバースフォースダブルプレイで二人目がランダウンとなり失策で生きた時も併殺打とする。(ランダウンは明らかにアウトチャンス)
打者の内野ゴロや犠打で二進した走者がファウルと勘違いして元の塁へ戻りかけてアウト→併殺打(二塁へは達していないと見做す)
- (b) ライナーをはじめた後、併殺完成のときは併殺打としない。
例) 投手がライナーをはじめた後、ショートが拾い6-4-3と転送して併殺を完成させたとしても、打者に併殺打は記録しない。
- (c) ハーフライナーをショートバウンドで処理して併殺完成 → 併殺打
(バントフライなどの飛球を、捕球できるのにわざと捕らずに併殺は、併殺打としない)
- (d) 併殺の第2アウト目の好送球を落球 → 落球した野手に失策。打者に併殺打
9.02(a)(17)【注2】

7 失策(9.12)

- (a) 頭腦的誤り、判断の誤りは失策とはしない。9.12(a)(1)【原注3】
頭腦的誤り → 投手が一塁ベースカバーに入らないで打者走者を生かす
ファウルになると思い打球を処理しなかったが、結局フェアになる
バント小飛球をワンバウンドで処理し併殺を狙うもアウト一つ
判断の誤り → 間に合わない塁に不正確な送球。
(悪送球となり余塁を与えれば失策)
- (b) 勘違いには失策を記録する。
勘違い → ◇捕手が振り逃げとは思わず、何もしない間に進塁を許す。(ボールを保持)
(実例) 2007年神奈川県大会準決勝「東海大相模対横浜」二死から振り逃げ。
捕手何もせず全員生還。(捕手に失策)

～用語説明～

【振り逃げ】…“振り逃げ”とは俗称で、野球規則では5.05(a)(2)で『(A) 走者が一塁にいないとき (B) 走者が一塁にいても2アウトのとき、捕手が第3ストライクと宣告された投球を捕らえなかった場合、打者は走者となる』と説明されています。打者が空振りしたときとは書かれていないので、例えば見逃しても第3ストライクと宣告された投球を捕手が捕球できなければ、“振り逃げ”の状態になります。

◇アウトカウントを間違えて、スタンドにボールを投げ入れる

(実例) 2003年5月21日「巨人 対 ヤクルト」の6回表一死一・二塁、鈴木健(ヤ)の左飛をレイサム(巨)が捕球するもチェンジと勘違いしレフトスタンドへ。(二個の塁を与える、レイサムに失策)

◇アウトカウントを間違えて、マウンドにボールを転がす。その間に進塁を許す

◇内野手がフェアのゴロを捕球したけど、ファウルと思いプレイを止める

◇内野手がワンバウンド捕球をダイレクトと思いプレイを止める

(c) インフィールドフライを落球し、走者に余分の進塁を許したときは、落球した野手に失策を記録する。

【こんなケースはどうする？】

Q：満塁で三塁へのインフィールドフライを落球し、各走者は落球を見てスタート。三塁手はボールを拾い本塁に送球するも捕手はフォースアウトと勘違いしタッグせず得点を許す。

A：この場合は捕手ではなく、起因(落球)となった三塁手に失策を記録する。

(d) インフライトの打球を落とした後、ただちにボールを拾って、どの塁でも走者を封殺した場合には、その野手には失策を記録しない。9.12 (d) (4)

(e) ファウルフライ落球にも失策をつける場合もある。

(ファウルフライ失策があっても完全試合)

(f) 正確な送球をしたとしても、失策が記録されることもある。走者の進んだ各塁については、その原因を明らかにしなければならない9.12 (a) (7)【原注】

例) 外野手からの正確な送球が走者に当たって転々とし、その間に余分な塁を与えた場合など。

(g) 野手が併殺を企てた場合、その最後のアウトをとろうとした送球が悪送球になっても、悪送球をした野手に失策を記録しない。ただし、最後のアウトに対する好送球を野手が落としたときには、その野手に失策を記録する。

(リバースフォースダブルプレイのときも、同様に扱う)

8 併 殺 (9. 1 1)

- (a) 連続したアウトのときダブルプレイとなる。アウトとアウトの間にミスプレイ（失策が記録されなくても）が入ると、連続したアウトとはみなさない。
- 例) 外野フライ捕球後、送球が逸れたのをみて走者が次塁を狙うもカバーした野手から転送されアウトとなる。(送球が逸れたのはミスプレイなので、連続したアウトではない)
- 走者一塁で、打者三振。三振目の投球を捕手が逸らすのを見てスタートした一塁走者が二塁でアウトになる。(逸らしたのはミスプレイなので、連続したアウトではない)
- (b) フライアウトと追い越しアウトが同時に起きた場合。双方のアウトに関連性がないのでダブルプレイとしない。
- (c) 走者三塁、犠牲フライで生還後に離塁が早いとアピールされアウト。
- 一旦投手にボールが戻っていても、タイムがかかった後か、投球動作に入らない限りダブルプレイとする。9.11【原注】(犠牲フライは取り消し)

9 暴投・捕逸 (9. 1 3)

- (a) 走者が複数いて、捕手が投球を逸らすのを見てスタート。一人でも（塁は問わず）アウトにすれば他の走者の進塁に暴投 or 捕逸は記録しない。9.13【原注】
- (b) 無死二塁、打者3ストライク目を捕手が逸らし二塁走者三塁へ。捕手が三塁へ送球しアウト
打者走者の出塁はアウトの間（暴投 or 捕逸は記録しない）(振り逃げの出塁)
- (c) 無死二塁、打者3ストライク目を捕手が逸らし二塁走者三塁へ。捕手は一塁へ送球し打者走者をアウトにする。
- ①二塁走者、捕手が逸らしたのを見て三塁へ。 ⇒ 暴投 or 捕逸
- ②二塁走者、捕手が一塁へ送球したのを見て三塁へ ⇒ 打者アウトの間
- ③二塁走者、投球と同時にスタートしていた ⇒ 盗塁

10 自責点・失点 (9. 16)

自責点とは、投手が責任を持たなければならない得点のことで、守備側が3人アウトにできる守備機会をつかむ前に失策や捕逸によらないで得点するたびごとに記録される。

(a) 【自責点の要素】 9.16 (a)

安打、犠打、犠飛、盗塁、アウトの間、野手選択、四死球、ボーク、暴投により走者が得点した場合。

(b) 【非自責点の要素】 9.16 (b) (c) (d)

①野手の失策（ファウルフライ落球含む）もしくは走塁妨害で出塁した走者が得点した場合

②走者に対し実際にプレイ（挟殺、先行走者の封殺）が行われ、失策によりアウトを免れた走者が得点した場合。

※①、②はアウトの機会

③失策（打撃妨害出塁含む）や捕逸などミスプレイの助けを借りて進塁した走者が得点した場合。

Q1：2アウトからAは遊ゴロ失で一塁に生きた。B本塁打、C三振で2点が入る。

A1：自責点「0」（なぜなら、Aの打撃で失策がなければチェンジになっていたから）

Q2：二塁走者Aが投手のけん制悪送球（失策）で三塁に進んだあと、Bの単打で得点。

A2：自責点「0」（Bが二塁打以上の長打であれば自責点となる）

(c) 投手の守備上の失策は、野手の失策と同様に扱い自責の要素から除かれる。 9.16 (e)

(d) 同一イニングに2人以上の投手が出場したときの救援投手は、出場するまでの失策や捕逸によるアウトの機会の恩恵を受けず、それまでのアウトの数を基にして改めてイニングを終わらせなければならない。 9.16 (i)

Q3：2アウト。投手甲、四球のAと失策出塁Bとを残して投手乙と代わる。Cが3点本塁打。

A3：投手甲の自責点「0」、乙の自責点「1」

(e) 【失点】

ある投手がイニングの途中で走者を残して退いた後を救援投手が受け継ぎ、その任務中に残された走者が得点した場合は前任投手の失点と数える。 9.16 (g)

※ここでは、残された走者の数が問題であって、走者が誰であったかに拘る必要はない。

Q4：投手甲、四球のAとBとを残して乙と代わる。Cはゴロを打ってBを二塁で封殺、
D3点本塁打。

A4：投手甲の失点「2」、乙の失点「1」

11 勝投手

- (a) ある投手の任務中に自チームがリードを奪い、しかもそのリードが最後まで保たれた場合はその投手に勝投手の記録が与えられる。
- ただし、①先発投手であれば、5回以上を投げていた場合。
②救援投手であれば、1回以上を投げていた場合。
③救援投手の投球回が1回未満であれば、1失点以内（前任投手の残した走者も含め）に抑えていた場合。
- (b) 上記以外で救援投手に勝ちの権利がある場合、救援投手が複数いれば最も効果的な投球を行った投手に勝投手の記録を与える。

試合の途中どこでも同点になれば、勝投手の決定に関しては、そのときから新たに試合が始まったものとして扱う。

12 その他

(a) 投球数について

- ①反則投球は実際に投球していれば、投球数に含む。

クイックピッチは走者がいなければ「ボール」。走者がいればボークで、ボークは送球になるから投球には含まない。

- ②「5.04 (a) (3) 打者がバッタースボックス内で打撃姿勢をとろうとしなかった場合、球審はストライクを宣告する。」が適用されたときは、投球数に含まない。

適用の場合、投げさせずにストライクを宣告するから。

- ③「5.07 (c) 塁に走者がいないとき、投手はボールを受けた後 12 秒以内（プロは 15 秒以内で運用）に打者に投球しなければならない。投手がこの規則に違反して試合を長引かせた場合には、球審はボールを宣告する。」

が適用されたときは、実際に投球していても投球数に含まない。

ただし、打者が安打、四死球、その他で一塁に達したときは、インプレイとし投球数に含む。

- ④申告制の故意四球があったとき、投球しないので球数には含まない。ただしカウントの途中からの場合は、それまでの投球は球数に含む。

(b) ボークと悪送球

①ボークしながらの牽制が悪送球となり、走者が 2 個以上進塁したときには、「ボーク＋投手失策」となる。

ボークしながらの投球が暴投 or 捕逸となった場合も同様に扱い、2 個以上の進塁は「ボーク＋投手失策 or 捕手失策」となる。(ボークの時点で投球ではなくなるため)

ただし、三振目が暴投 or 捕逸となり、打者、走者ともに 1 個以上進塁すれば、ボークは消えて、「暴投 or 捕逸」が記録される。

②ボークしながらの投球が暴投 or 捕逸のとき、走者がスタートしていた。

1 個進塁は「ボーク」のみ

2 個進塁は「盗塁＋失策」

13 タイブレーク (特別ルール)

規定により置かれる走者はタイブレークランナーとし、スコアには「TR」と記入する。

(a) 投手成績

タイブレークランナーについては、そのイニングの開始時に登板していた投手(第 1 球を投じた投手)の失点とするが、自責点とはしない。

(b) 打撃成績

①タイブレークランナーの盗塁、盗塁刺、得点、残塁は記録する。

②タイブレークランナーの絡んだ打点、併殺打などすべて記録する。